

# 東日本大震災から学ぶ

(社) 高知県測量設計業協会

## 1. まえがき

高知県は、約100年の周期で繰り返し大地震に見舞われ、その都度多くの犠牲者を出している。今後30年以内にマグニチュード8.4規模の東南海・南海地震が来る確率は60～70%と予測され、その対策が進められてきた。

そうした中、昨年の3月11日に起きた東日本大震災は、想像を絶するものであった。巨大津波が人、自動車、家屋、一切合切を飲み込む様子は、この世の出来事とは思えない地獄絵を見せられる思いであった。

最近の研究によれば、南海トラフでもマグニチュード9.0の超巨大地震が発生し、高知県を最大34mの津波が襲う可能性がある。最悪の場合、高知県内だけで約5万人の死者が出ると予測されている。

東日本大震災は、高知県民にとって他人事ではない。高知県測量設計業協会では、被災された方々に少しでもお役に立ちたいという思いと、実際の状況を自分たちの目で見、体験された方の生の声を聞かせていただき、それらを教訓にして南海地震への備えをしなければならないという使命感で、昨年の6月と今年の9月に被災現場を視察してきた。

## 2. 第一次視察（平成23年6月）

発災直後に被災現場を視察してきた高野光二郎・元高知県議の呼びかけで、「宮城県を元気にする高知応援隊」を立ち上げ、高知県内の有志を集ってボランティア活動に行くことになった。

高知県測量設計業協会からも15名が高知応援隊に加わり、6月17日から4泊5日の日程で宮城県を訪問し、下記の活動を行った。



第一次視察団と案内していただいた名取市の職員

- 1日目：多賀城市、仙台港、七ヶ浜を視察。松島町野外活動センターで地元の皆さんと交流。
- 2日目：気仙沼高校と志津川高校に分かれて炊き出しなどのボランティア。夕方から、松島町野外活動センターで地元の皆さんと交流。
- 3日目：調査班は、北上川、石巻港、女川町を調査。ボランティア班は、多賀城市で清掃活動。
- 4日目：名取市、仙台市、亶理町を調査。宮城県庁の畠山県議会議長と若生副知事を表敬訪問。

## 3. 第二次視察（平成24年9月）

第一次視察は被災状況の調査とボランティア活動が主な目的であったため、参加者は実務者が主体であった。

第二次視察は、被災後の復旧・復興活動況を調査し、巨大地震を対象としたBCP（事業継続計画）の策定、国交省や県、市町村との防災協定などの課題を探ることを目的とし、9月25日から3泊4日の日程で橋口会長以下15名の役員と会員で現地を視察した。



宮城県測協との意見交換会



第二次視察団と案内をいただいた宮城県東部土木事務所の職員と佐々木・前県議



女川町廃棄物選別処理施設の見学



気仙沼の視察

初日は、名取市の森下技術主幹に閣上の被災地を案内していただいた。その後、仙台市内のホテル「パレス宮城野」で1時間半にわたって宮城県測量設計業協会と地震津波防災に関する意見交換会を行った。宮城県測協から、菅井会長、庄司副会長、西條技術・経営委員長、高橋事務局長、栗原事務局次長の6名が参加して下さり、当事者でなければ知り得ない貴重なご意見を聞かせていただいた。

二日目は、女川町、石巻市、北上大橋を視察した。女川町では須田町長から被災状況と復興計画について説明をしていただくと共に、廃棄物選別処理施設を見学させていただいた。

三日目は、陸前高田市、気仙沼市、南三陸町の被災と復興の状況を見て回った。

#### 4. あとがき

第一次現地視察の詳細については、『東日本大震災における宮城県内の被災地調査とボランティア活動』と題する報告書にまとめ、高知県内の関係機関に配布した。報告書は、高知県測量設計業協会のホームページで公開している。

第二次現地調査についても報告書にまとめ、ホームページで公開する予定である。

調査に当たっては、宮城県測協の役員の皆様、女川町の須田町長、宮城県議の安部議員、佐々木・前議員をはじめ多くの方にお世話になった。復旧・復興に追われて超多忙であるにも関わらず、我々のためにお骨折りいただいた皆様に心より感謝申し上げる次第である。

(技術委員長 右城猛)